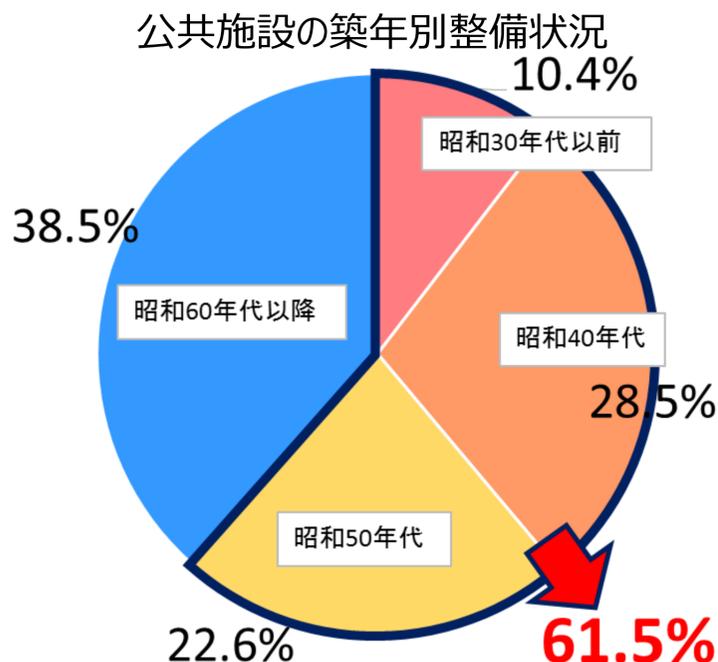


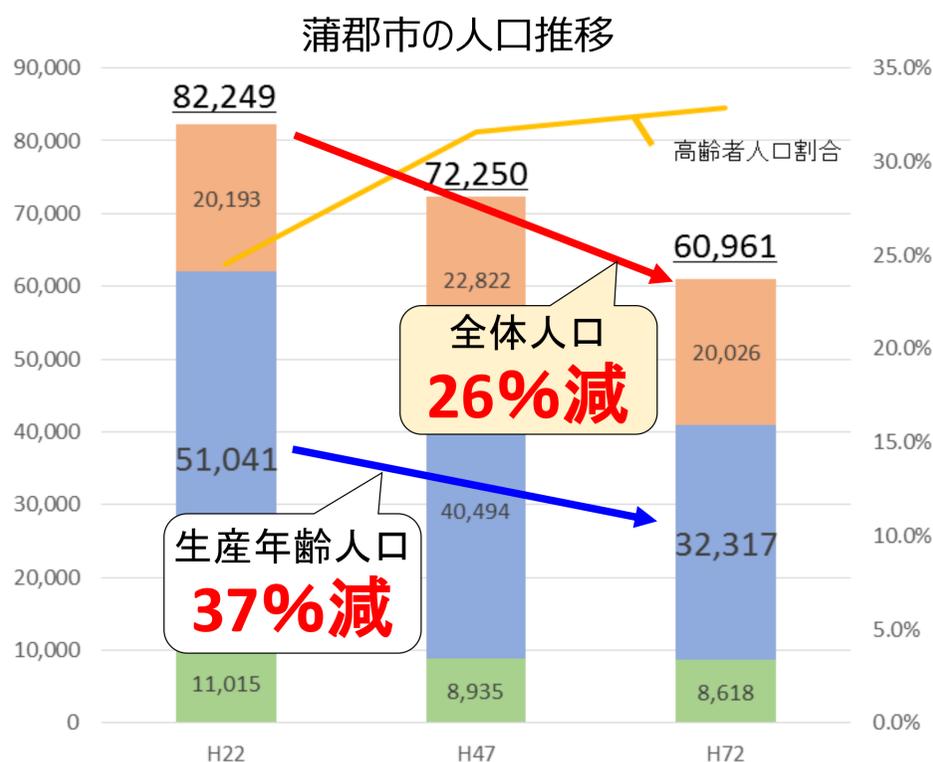
1 公共施設の老朽化が進んでいます。

- 蒲郡市の公共施設の多くは昭和30～50年代にかけての高度経済成長期に、人口の増加に伴い建設され、この時期に建築された築30年以上の公共施設は、全体の**61.5%**を占めています。



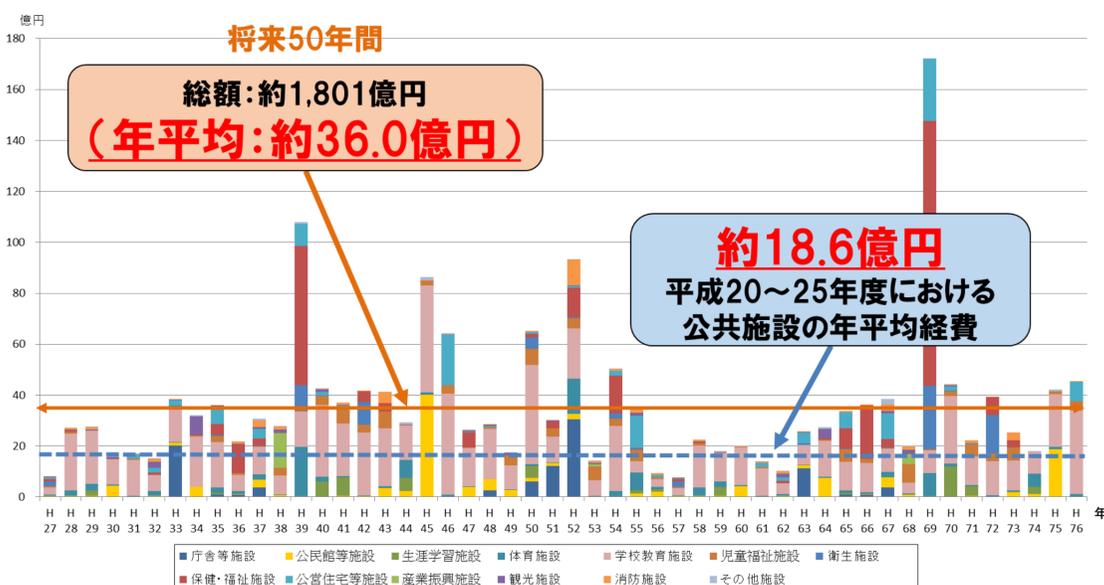
2 人口減少と少子高齢化が進みます。

- 蒲郡市の人口は50年間で**約2.1万人**減少し、平成72年には**約6.1万人(26%減)**になると予測されています。
- また平成72年には、生産年齢人口は**約37%減**となり、高齢者人口の割合は**30%以上**になる見込みです。



3 施設を維持する費用が不足します。

公共施設に係る将来費用予測



36.0億円 (推計年平均経費)
- 18.6億円 (近年の年平均経費)

17.4億円 (1年あたりの不足額)

- 現在公共施設の整備にかけている費用を全て確保できたとしても**年間約17.4億円が不足**することが見込まれます。

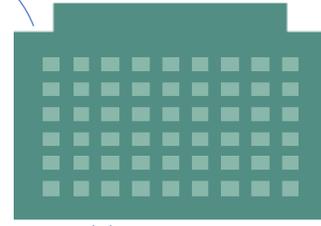
西浦地区の皆様と、将来の公共施設の配置や使い方について考えています。

施設の維持に関わる課題

- 老朽化
- 人口減少
- 高齢化
- 財源不足

解決するために・・・

市民協働で将来の新たな公共施設の配置や使い方
(地区個別計画)について考えよう!!



行政



市民

西浦地区
個別計画の策定

ワークショップなどによる
意見の取り込み
(市民協働)

- 西浦地区の皆様にご参加いただき、全5回の予定で「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。



ワークショップの検討の進め方

- ワークショップでは段階的に検討(ステップ1～5)を行います。

ステップ1
9/9(土)

ステップ2
10/7(土)

ステップ3
12/17(日)

ステップ4・5
1/21(日)・2/25(日)

地区個別計画策定に向けた進め方の確認

地区の課題・ビジョンの抽出

施設再配置プランの検討

施設再配置プランの比較
絞り込み

西浦地区個別
計画の策定

現在はこの段階です。

西浦地区にとって皆さんが重要だと考えていることを7つの視点にまとめました。
公共施設の再配置を考える際、あなたにとって重要な視点はどれですか？

視点① 地区の活性化(まちづくり)

かつて盛んに行われていた地区の行事や活動、住民同士の交流を再び盛り上げる。

視点② 人口減少・少子高齢化社会への対応

子育てしやすい環境をつくることで若者を呼び寄せたり、高齢者が生きがいを持って過ごせるようにする。

視点③ 教育環境の適正化

児童生徒数が少なくなっている現状を踏まえ、今よりも子どもたちが切磋琢磨する環境で社会性を身につけられるようにする。

視点④ 災害時の対応

地震などの災害時に安全に避難できるようにする。

視点⑤ アクセシビリティへの配慮

徒歩や自転車での通いやすさ、駐車スペースなどを改善する。

視点⑥ 将来負担(コスト)の縮減

社会変動に伴い、施設規模を適正なものにすることで将来の世代に過度な負担を残さないようにする。

視点⑦ 運営の改善

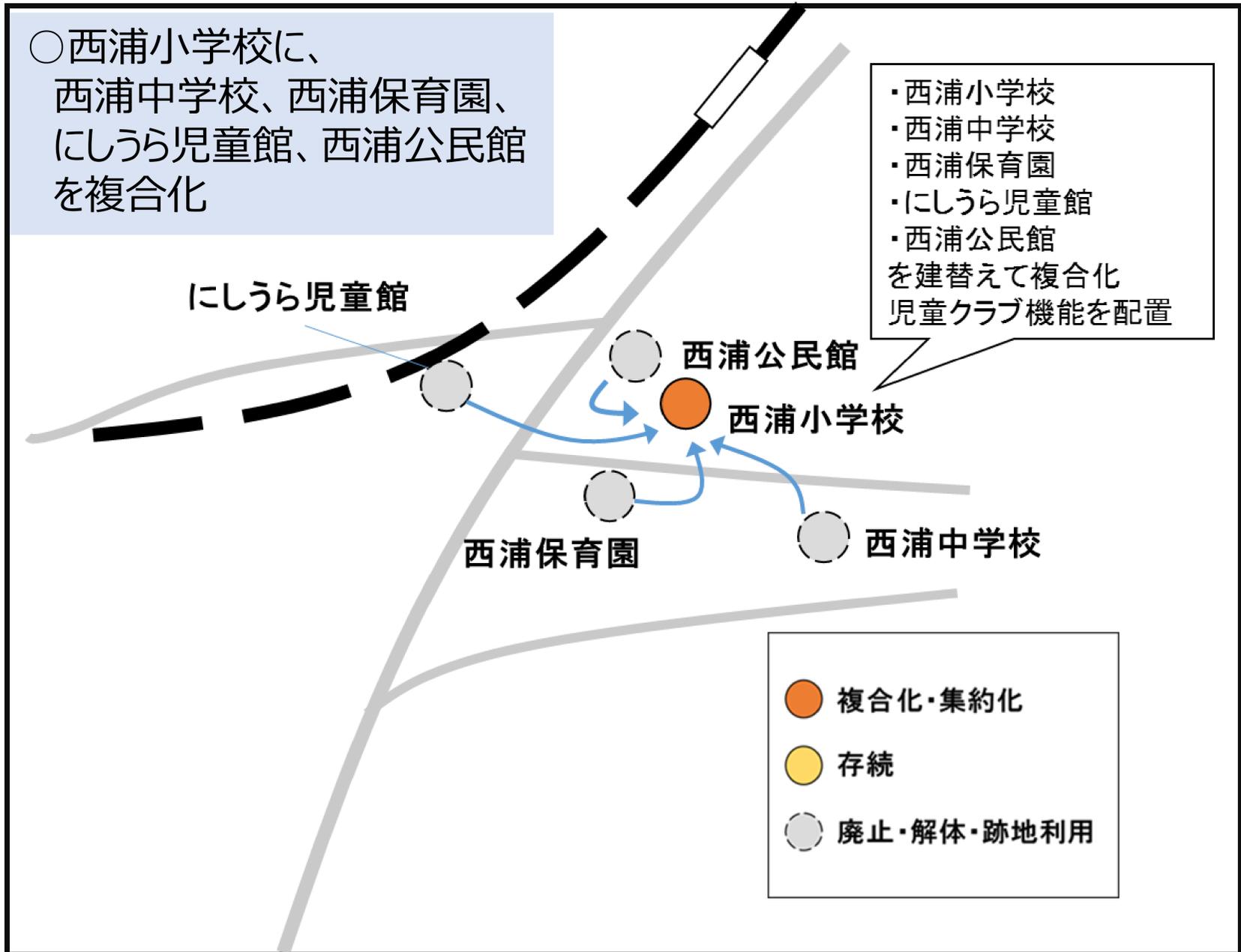
情報発信や運営方法の工夫をすることで施設の魅力を高める。

ワークショップでのご意見から再配置プランを4案つくりました!! あなたはどのプラン案がいいですか？



将来世代の負担を抑えつつ、
一体感のある地域の拠点をつくりたい…!!

A 施設を集中させて地域の拠点をつくるプラン



ワークショップでの意見

期待できること

- 異年齢の子ども達や、子どもと大人・高齢者の交流機会が増え、にぎわいづくりや子どもの成長などにつながることを期待できる。
- 運動会などの行事を合同で開催することで人数が増え、盛り上がりそう。
- 1ヶ所に機能が集中することで、異年齢の子ども達の合同の通学など利用者は便利になるのではないかな。
- 地域のランドマークになり、一体感が生まれそう。
- 人件費などの経費節約が期待できる。

懸念されること

- 園児が騒がしいと中学生の学習の支障とならないか。
- 学校の体育館やグラウンド、駐車場が十分確保できるのか。
- 多くの機能を1ヶ所に集めることで、混雑したり、施設が手狭になったりしないか。
- 1つの拠点に集中することで、交通格差が拡大するのではないかな。
- 地域交流の場と教育の場の棲み分けが不安に感じる。

好ましいプランにシールを貼ってください。

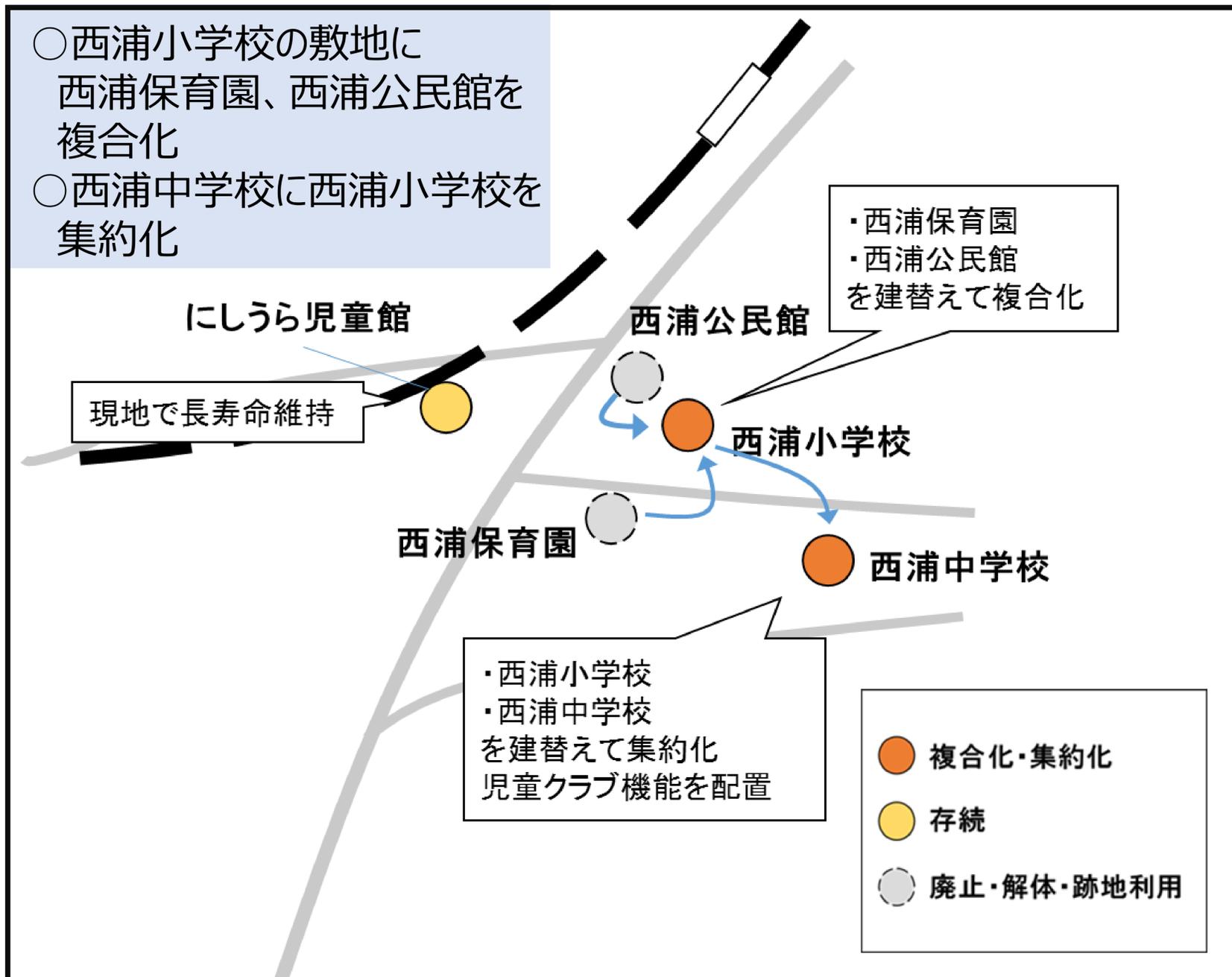


多くの世代が交流できる
場所をつくりたい…!!



B

多世代の交流拠点と教育の拠点をつくるプラン



ワークショップでの意見

期待できること

- 保育園と公民館が複合化されることで、園児と高齢者の交流や、保護者の公民館利用が期待できる。
- 高台にある中学校敷地を津波時の避難所として活用できる。
- まちを見渡せる高台に学校があることは、子どもたちのまちへの愛着を育むことができる。
- 建物が新しいにしうら児童館を有効活用しているという点で評価できる。

懸念されること

- 中学校の敷地は小学生が通うには大変である。（「慣れれば負担は小さい。」「足腰が鍛えられてよい。」という意見もあった。）
- 中学校周辺は民家や外灯が少なく、安全・防犯上懸念がある。
- 小中学校両方の敷地を使って建替えるため、将来負担はA案やC案より大きくなりそうだ。将来負担の縮減にあまりつながらないのではないか。
- 小学校敷地に保育園と公民館の複合化だけでは土地がもったいない。

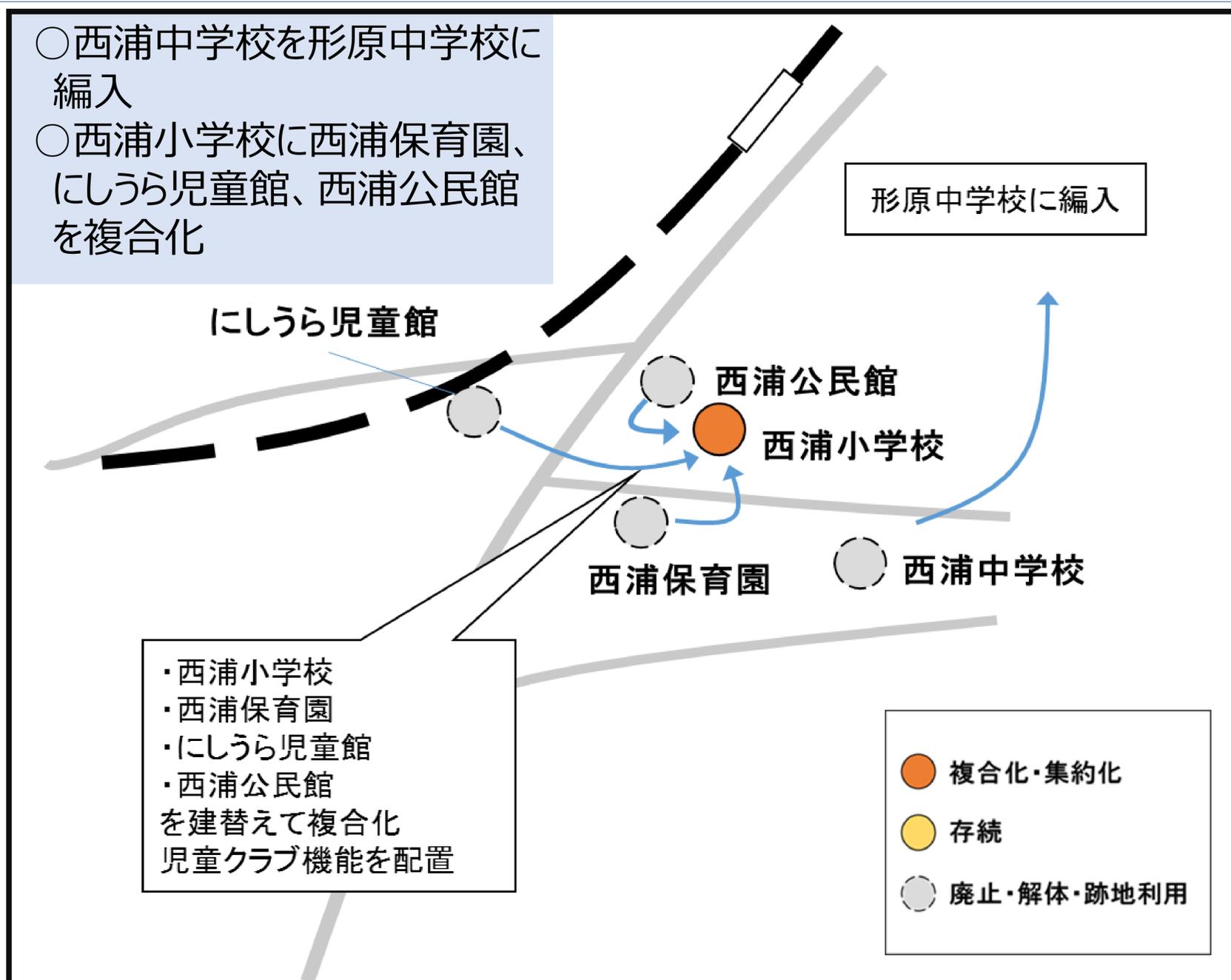
好ましいプランにシールを貼ってください。



今よりも子どもたちが切磋琢磨できる環境で
社会性を身につけられるようにしたい…!!

C

西浦中学校を形原中学校に編入するプラン



ワークショップでの意見

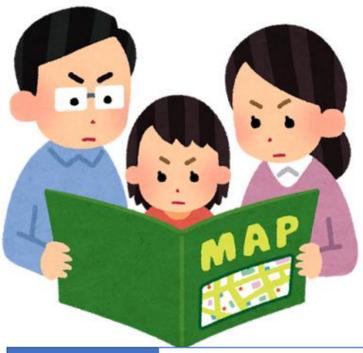
期待できること

- 将来負担（コスト）がもっとも縮減されそうで期待できる。
- 中学校の生徒数が多くなることで、部活動の選択肢も増え、中学校生活が活発になるだろう。
- 西浦中学校は人数が少ないことで学力の面での不安があり、形原中学校と一緒にになるとよい面もあるのではないか。
- 1ヶ所に集中することで、利用者の利便性が高まることがよさそう。また行事が賑やかになり、多世代交流も促進されるのではないか。

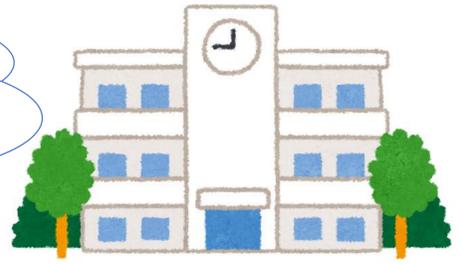
懸念されること

- 西浦中学校がなくなるのは心情的に寂しい。
- 中学校が西浦地区からなくなり、他施設も1ヶ所にまとめられるため、西浦が将来発展することを否定しているようなイメージがある。
- 形原中学校は遠く、個々での登下校は不安。スクールバスなどの通学手段を確保する必要があるそう。また、自転車で通うにも道路が整備されておらず、危険ではないか。
- 西浦の地域性が失われるように思う。
- 新居を建てる際に形原に移住する人が増えそう。

好ましいプランにシールを貼ってください。

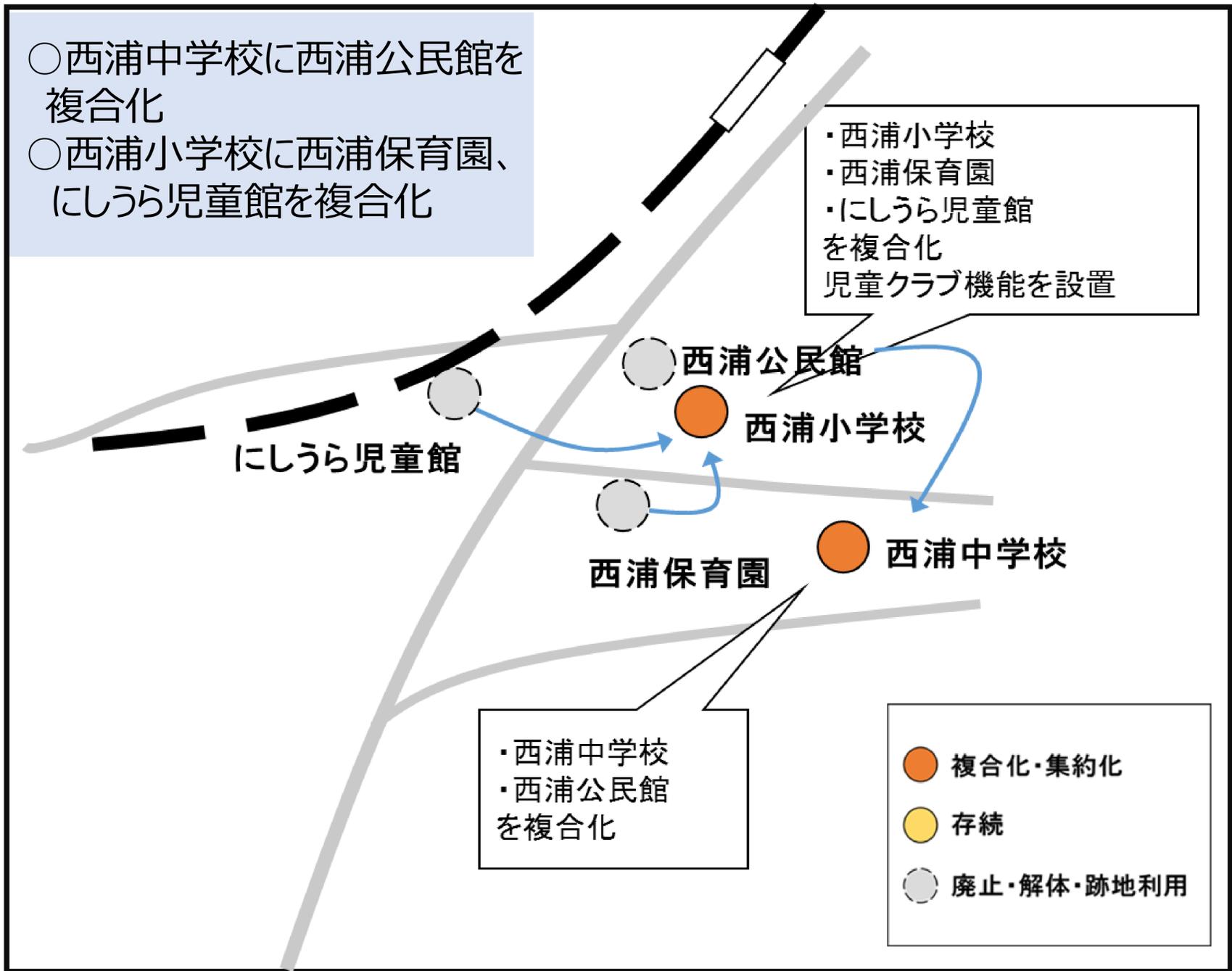


2つの学校拠点を利用した
配置にしたい・・・!!



D

学校を中心とした2つの拠点をつくるプラン



ワークショップでの意見

期待できること

- 中学校敷地を津波時の避難場所として活用できる。また、非常時発電システムもあり、残す価値がある。
- 中学生は地域住民とコミュニケーションをとるのにちょうどよい年齢だ。異年齢との交流の点で、公民館と中学校の併設はよい。
- 高いところと低いところに多世代交流のまちの拠点ができるのは防災面でよい。

懸念されること

- 将来負担（コスト）が最も大きくなりそうだ。
- 中学校と公民館を複合化するメリットがあまりないと思う。高齢者と中学生が交流するのだろうか？
- 高台に公民館が移転されると、高齢者はアクセスしづらく、利用者の負担が大きい。
- 交通の便が悪く、公民館の利用者が減ると思う。
- 小中学校両方を残すことは、教育の負担が大きいだろう。小中一貫のほうが効率化できることがあり、教育の質が担保されると思う。

好ましいプランにシールを貼ってください。